

2023年度事業報告書（案）

特定非営利活動法人
おもしろ科学たんけん工房

【1】事業の成果（概要）

2022年度に比べれば体験塾はやや増えたが、応募者数はコロナ前の水準には回復しなかった。

- ・東京応化科学技術振興財団からの特別表彰を受け、おもしろ科学たんけん工房の活動を一層深化し、地域社会の期待に応えた活動をした。
- ・おもしろ科学体験塾と異なる活動領域の拡張も進めたい。
- ・コロナの規制は無くなったが、まだその影響は少し残っていてコロナ前より応募者が減少している。その他の要因もあるようだ。

（1）体験塾

中核事業である子どものための「おもしろ科学体験塾」（実験・工作の体験学習）は、年間計画として当初180講座を計画。実施できた回数は回復したものの、参加児童数は回復しませんでした。

計画では、参加児童・生徒総数は延べ約2,700人を見込んでいましたが、実施できた講座数は合計184回で計画を上回ったものの、応募人数3,171人、参加人数は残念ながら2,349人に留まりました。1回当たり参加人数は計画の15.0人に対し、実績は12.8人でした。

（2）出前塾・学校支援・特別教室

各方面からの出前の要請は大幅に回復し、合計66回の出前授業を実施しました。

学校支援および特別教室としては、5回+1回の計6回実施できました。

藤沢市立中学校生徒を対象にした特別クラス「中学生のための飛行機教室」は、今年度も実施できた。参加校11校、参加生徒182名、でほぼコロナ前と同レベルで出来ました。

（3）スタッフ養成研修

「理科推進スタッフ体験講座」を2023年度も、3回の実施を計画し、藤沢市内で1回実施、横浜市内で2回（前期・後期）実施しました。

藤沢地区は8名が受講を完了し、6名が入会しました。

横浜地区は前期13名、後期10名が受講し、前期9名、後期6名が入会しました。

（4）広報活動・イベント出展

対外的広報活動も兼ねたイベント出展では、かなり回復しました。県立青少年センターの「青少年のための科学の祭典神奈川大会」は8月に開催し当工房のブースに340名が参加しました。

イベント出展の総数は32回でした。（ちなみに22年度は22回 21年度は8回、20年度は6回のイベント出展がありました。）

（5）その他

- ① 外部への寄附金募集活動はコロナ禍のなかでもあり積極的には推進しませんでした。
- ② 10年間連続して、東京応化科学技術振興財団の助成金を受けることができました。
- ③ 全体交流会は2023年4月16日に実施しました。

【2】事業活動詳細内容（2023年4月～2024年3月）

（1）「おもしろ科学体験塾活動」（子どものための実験・工作体験塾）

コロナ禍からは回復したものの、以前と同レベルにはいま一息であった。コロナの規制から解放されて、インフルエンザなどの感染症が急が増え、当日欠席が特に多かった。このため応募と参加の人数差が大きくなっている。

表1 地区別応募人数推移表

| 地区 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|------|------|------|------|------|------|
| 藤沢 | 840 | 153 | 111 | 691 | 830 |
| 横浜西 | 467 | 146 | 477 | 470 | 438 |
| 横浜東 | 1087 | 174 | 878 | 1113 | 984 |
| 横浜北1 | 435 | 224 | 463 | 416 | 380 |
| 横浜北2 | 558 | 149 | 488 | 548 | 539 |
| 合計 | 3387 | 846 | 2417 | 3238 | 3171 |

表2 地区別参加人員推移表

| 地区 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|------|------|------|------|------|------|
| 藤沢 | 524 | 47 | 52 | 396 | 521 |
| 横浜西 | 345 | 113 | 341 | 355 | 335 |
| 横浜東 | 864 | 131 | 633 | 788 | 768 |
| 横浜北1 | 335 | 141 | 255 | 305 | 308 |
| 横浜北2 | 384 | 77 | 317 | 404 | 417 |
| 合計 | 2452 | 509 | 1598 | 2248 | 2349 |

実施した講座の1回当たりの平均応募者数と参加者数は次表のとおりです、2023年度は22年度とほぼ同等だが、2019年度以前の水準には達していない。

表3 体験塾1回当たりの応募者数と参加者数の推移；

| 年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|------|------|------|------|------|------|
| 応募者数 | 19.6 | 15.3 | 21.8 | 17.9 | 17.2 |
| 参加者数 | 15.5 | 10.6 | 14.4 | 12.4 | 12.8 |

会場によってバラツキはあるものの、全体としての減少傾向にあります。

【一般的出前塾と学校支援】

2023年度実績

出前塾 実施回数：66回、参加人数：938名
 出前体験塾 実施回数：18回、参加人数：280名
 学校支援 実施回数：5回、参加人数：326名

（2）特別クラス（中学生対象の模型飛行機教室）

毎年開催される飛行体大会（※）を目標に、「飛行機教室2023」を実施しました。飛行機教室は従来、全校が一堂に会する方式で実施してきたが、参加希望の多い藤ヶ丘中学だけで1回、それ以外の学校は第一中学で2回に分けて、都合3回にわたって実施した。参加は11校 参加生徒182名、でほぼコロナ前と同レベルになった。

（※：藤沢市立中学校科学部顧問の教師により開催される「第30回ゴム動力飛行体大会」）

(3) 学校支援等

① 杉田小学校 わくわくクラブ活動支援（磯子区）

- ・今年度は杉田小150周年記念式典等の行事があり、式典に招待された。
- ・科学クラブは、参加児童が40名と盛況。工房からは4名のスタッフが指導に当たった。
- ・11回それぞれテーマを決めての開催し、2月初めに無事終了した。

② 南吉田小科学クラブ支援（南区）

- ・今年度は、11回の開催で2月に振り返りと「百人おどし」で終了した。
- ・参加児童が18名。工房からスタッフ4名で指導に当たった。
- ・ダンゴムシ、ストロートンボなど、新しいアイテムにも取り組んでもらえた。
- ・来年度も依頼したい旨、内々に打診があった。

③ 藤沢市秋葉台小学校 特別教室

2024年1月23日 PTAの主催の「開こう科学のとびら」で、4年生全員3クラス＋支援級の90名が参加。「ゴムカタパルト式紙飛行機」を製作。校庭での飛行実験は天候もよく、見事な飛びぶりに、児童たちは大満足の様子でした。

④ 川井小学校、瀬谷さくら小学校

科学クラブ等の支援を長年続けてきたが、今年度は、計画されなかった。

⑤ 梅林小学校梅っ子体験スクールの学校行事支援（磯子区）

- ・10月28日（土）全校での地域の方々を先生に招いて体験教室を行う。
- ・コロナにより中止されていたが、久しぶりの活動だった。
- ・たんけん工房は、1年生とスライムを作り、2年生と紙すきを担当した。

⑥ 浜小学校3年生生活授業の紙すき体験の支援（磯子区）

- ・1月16日（火）3年生 2クラスに、4名で対応した。
- ・夏頃より授業で牛乳パックからはがきを作成することを学習しており、最後のまとめとして我々持参した種を使ってはがきを作成し、各々楽しんで、何枚も作成した児童もいた。

(4) 科学体験活動推進スタッフの発掘・養成研修事業

スタッフの拡充、ならびにレベルアップのための活動

① スタッフ養成研修の実施_横浜地区

横浜市教育委員会の後援を得て、（公財）よこはまユースとの共催で、夏～冬にかけて2回のスタッフ養成研修を計画しました。コロナ禍のため若干不完全な形での実施となりました。

体験塾の人数制限などの影響で、個別実習は予定変更が多発しました。

2020～2023年度養成研修の受講者の状況は下表のとおりでした。

| | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 前期 | 23年度 後期 | 23年度 |
|----------------|------|------|------|------------|------------|------|
| 応募申込者総数 | 29 | 35 | 76 | 29 | 20 | 49 |
| 実習リレゾナンス参加者数 | 16 | 32 | 39 | 13 | 10 | 23 |
| 現場実習自由実習参加 | 14 | 26 | 36 | 13 | 10 | 23 |
| 実践へのリレゾナンス参加者数 | 0 | 25 | 33 | 11 | 8 | 19 |
| 研修の完了者数 | 16 | 33 | 31 | 13 | 10 | 23 |
| 研修経由入会者数 | 7 | 15 | 19 | 9 | 6 | 15 |

② スタッフ養成研修の実施_藤沢地区

藤沢地区でのスタッフ養成研修も1回実施しました。横浜地区の養成研修とは若干プログラム構成は異なりますが、スタッフの拡充・補充の為に藤沢地区の人材を育成することを目的にしています。今回は説明会・見学会に9名応募があり、8名が集合研修に参加され、6名が入会されました。

③ おもしろ科学たんけん工房の人員状況（最近11年間の推移）

様々な事情から、退会される会員も次第に多くなっている中、研修会の結果や広報を契機に、相当数のボランティアの参入があり、個人的つながりによる勧誘ならびに一般広報活動の結果の新規参入も含め、下記のとおりアシスタントや指導員として実働するメンバーが、着実に増加してきましたが、200名を超えたところで、やや足踏み状態となりました。全体として高齢化が進んでおり、活動に従事できなくなる会員も増加しており、若返りに向けて対応することが必要です。

| 時点 | 内訳 | A+AJ 正会員数 | AJ 内実務会員 | CJ 準会員 | A+AJ+CJ 合計 | aj+cj 実務 メンバー計 |
|--------------|----|--------------|-------------|-----------|---------------|-------------------|
| 2013年 3月 31日 | | 156 | 143 | 28 | 184 | 171 |
| 2014年 3月 31日 | | 162 | 146 | 34 | 196 | 180 |
| 2015年 3月 31日 | | 174 | 158 | 41 | 215 | 199 |
| 2016年 3月 31日 | | 184 | 169 | 36 | 220 | 205 |
| 2017年 3月 31日 | | 195 | 180 | 28 | 223 | 208 |
| 2018年 3月 31日 | | 210 | 189 | 26 | 236 | 215 |
| 2019年 3月 31日 | | 203 | 184 | 27 | 230 | 211 |
| 2020年 3月 31日 | | 199 | 187 | 33 | 232 | 220 |
| 2021年 3月 31日 | | 205 | 198 | 39 | 244 | 237 |
| 2022年 3月 31日 | | 204 | 199 | 33 | 237 | 232 |
| 2023年 3月 31日 | | 209 | 205 | 55 | 264 | 260 |
| 2024年 3月 31日 | | 248 | 239 | 23 | 271 | 262 |

(5) 工具の使い方研修

体験塾等での工作の部品作りや、参加児童に個人差なくサポートできるように「工具の使い方」研修を2009年度からスタートし、2018年度までは外部向けの研修プログラムに入れてきました。この研修を会員にも経験してもらうため、2019年度からこの研修を入会後の研修に移し、2021年度、2022年度、2023年度に4月・8月・12月と年3回実施しました。

しかし、受講済みの会員が増え、また、外部向けの研修受講者の参加が極めて少なくなったため、次年度からは、外部向け研修に一部を組み入れ、また、内部向けに新たなコンセプトの「工具の使い方」体験講座を企画することになりました。

(6) 行政、学校や他の施設・団体が企画するイベントへの参加

コロナ明けで、イベント出展の依頼が回復してきました。新たな依頼も目立ちます。長年参加している、青少年センターの「青少年のための科学の祭典」の工房のブースには340名の来場者（工作者）がありました。出展規模を絞った開催ではあったが、祭典は盛況でした。また、新たに、横浜市の「秋のこどもDAY」に合わせた、横浜市民共同推進センターのワークショップを引き受け、2時間で220名の来場者にかんたん工作を楽しんでもらいました。詳細は省略しますが、藤沢地区や川崎地区でも多方面からの依頼に応えてきました。

(7) 普及・啓発誌「たんけん通信」の発行

本年から、新編集方針で紙面を刷新して4月、7月、10月、1月の4回発行しました。広報担当とともに広報をになう重要な部門であるとの認識のもとに、内容を充実させたい。

(8) 全体交流会

2023年4月16日（日）に藤沢市民会館第1 展示集会ホールで実施しました。会員96人、同行者5名と100名を超える参加者があり、またZOOMで一般参加者18名がオンラインで参加し、会員相互の情報交換など活発に行われ、盛況のうちに終了した。

(9) 低学年塾の新展開

当初計画していた4会場（東台小キッズクラブ、上寺尾小キッズクラブ、ひよし子ども食堂、幸区役所親子ふれあいサロン）に加えて10月から富岡小キッズクラブで「おもしろ科学 for KIDs」がはじまった。

(10) 川崎地区の新展開

- ① 川崎市民活動センターに川崎市民公益活動助成金申請を「おもしろ科学かわさき」というグループとして昨年に引き続き提出。年に4回以上の体験塾を中原区、宮前区で計画
- ② 川崎市立産業振興財団とのコラボにより、川崎市産業振興会館での体験塾開催が実施されている。また「科学で遊ぶ幸せな一日」への参加。
- ③ 「かわさき新産業創造センター共同事業体」太陽誘電（株）とのコラボにより、太陽誘電から会場をお借りして体験塾を開催。
- ④ 下平間こども文化センターでの科学クラブを毎月開催。これは3、4年生の参加が多い。
- ⑤ 川崎地区の自立を目指して、会員の拡大、主任を務められるメンバーの養成が必要。

[3] 運営管理状況と今後の運営上の課題

(1) 組織運営

- ① 本部事務局業務の分散化と引継ぎの状況。
 - ・代表理事が交代し、これに伴い本部業務をいくつかのグループで分担する形とした。
 - ・総務関係、会計関係、会員管理関係の3グループ制とした。
 - ・工房発足以来、前代表がその多くをこなしてきたが、その引継ぎに当たって、個々の業務をどこの誰が引き継ぐかの判断決定に大変苦労した。
 - ・1年経って各種業務がほぼ一回りするので、一部はまだあるかもしれないが 前記の3グループにほぼ引継ぐことが出来た。ひとまずこれで落ち着くと思われる。
- ② 準会員制度
 - ・昨年5月の総会で廃止が決定した。

(2) 刷新プロジェクト

おもしろ科学たんけん工房の活動全体につき、改めて課題を整理し、刷新に向けての行動計画をまとめるため。2020年に刷新プロジェクトを立上げました。以降2023年3月までに26回の会合を行い、運営会議に報告しました。

① 高学年プロジェクト

2023年度は高学年プロジェクトを進めるにあたっての参考として以下の4つの施設の見学ならびに担当者との会合が行われた。

藤沢科学少年団（山本さんからの報告）理科ハウス（逗子）青少年センター科学部（厚木）子ども大学よこはま（横浜市立大学）

そこで学んだことを参考にしながら、メンバーがいくつかの企画案が提案し、実施への方針が具体化されつつある。

② 組織と組織運営の検討

刷新プロジェクトの最終課題であり、難題でもある組織と組織運営に関する検討を進め「法人としての『目的・使命～理念』=ビジョンの見直し」をまとめ、運営会議に提案した。

【4】 財政状況

(1) 事業収入

科学塾参加費は、開催回数は181回と増加したが、参加者の平均が13名弱となり、収入は微増にとどまった。参加者確保の実効ある施策を期待する。

出前・イベント・学校支援は前年度並みに推移。

新しく始めた、低学年塾と出前体験塾が健闘し、新たな収入源に育ちつつある。

しかし、一部に課題も見えてきて、工房の運営上、早急な改善が望まれる。

(2) 経常収支は赤字、事業収支決算は大幅な赤字

経常収支は、収入751万円に対し、支出は773万円と、22万円の赤字であった。

今年度は、東京応化科学振興財団からの助成金45万円に加え、特別表彰金60万円をあてての収支結果で、根本的な対応策を講じる必要を感じる。

事業収支は、139万円の赤字で、これが、経常収支悪化の要因となっている。

2024年度において、実効ある改善の諸施策を講じることは、待ったなしとなった。

収支概要推移(2019~2023) 単位：千円

| | 2019 決算 | 2020 決算 | 2021 決算 | 2022 決算 | 前年比 差額 | 2023 決算 |
|-------------|------------|------------|------------|------------|-----------|------------|
| 収入 | | | | | | |
| 会費収入 | 1,572 | 1,557 | 1,571 | 1,636 | -24 | 1,612 |
| 事業収入 | 3,869 | 719 | 2,171 | 3,364 | 489 | 3,853 |
| 寄付金収入 | 1,108 | 934 | 979 | 2,986 | -2,016 | 970 |
| 助成金等収入 | 500 | 2,450 | 560 | 450 | 0 | 450 |
| 受取利息・雑収入 | 7 | 49 | 8 | 10 | 612 | 622 |
| 当期収入計 | 7,056 | 5,709 | 5,289 | 8,446 | -939 | 7,507 |
| 支出 | | | | | | |
| 事業費合計 | 4,879 | 1,833 | 3,735 | 5,122 | 121 | 5,243 |
| ① 科学塾等 | 3,890 | 1,232 | 2,616 | 4,180 | 438 | 4,618 |
| ② 普及/研修等 | 989 | 601 | 1,119 | 942 | -317 | 625 |
| 管理費 | 1,478 | 1,018 | 1,450 | 5,158 | -2,669 | 2,489 |
| 当期支出計 | 6,357 | 2,851 | 5,185 | 10,280 | -2,548 | 7,732 |
| 当期収支差額 | 699 | 2,858 | 104 | -1,834 | 1,609 | -225 |
| 参考指標・事業収支差額 | -1,010 | -1,114 | -1,564 | -1,758 | 368 | -1,390 |

注記 2022年度寄附金には 臨時大口寄附金2,000千円を含む。
2022年度管理費には20周年記念誌発行と記念行事費用を含む。

(3) 東京応化科学技術振興財団の助成金の継続申請～確定：

2024年度の助成金として東京応化科学技術振興財団の助成金を申請し、45万円の助成金が確定しています。

以 上

添付

1. 2023年度活動実績
2. 研修プログラム概要(藤沢地区、横浜地区)

所轄庁提出には添付しますが、会員には別途周知済みのため総会議案には添付しません。